

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名

唐津市立打上小学校

達成度(評価)			
A:十分達成できている			
B:おおむね達成できている			
C:やや不十分である			
D:不十分である			

1 前年度
評価結果の概要

- 児童の学力向上に向けて、なかよし学習は教員が共通理解・共通実践を行った。
- 特別活動や体験活動を通して、児童の自己肯定感や郷土愛を育むことができた。また、将来の夢をもたせることにもつながった。
- 道徳の授業改善、人権・同和教育、特別支援教育を推進し、教員の知識と技能を向上させるとともに活用や情報交換を行い、児童への支援を充実させた。

2 学校教育目標

地域や仲間を思い 夢に向かって輝く子どもの育成

3 本年度の重点目標

- △なかよし学習(主体的で対話的で深い学び)の中で、子どもが活躍する授業づくりを実践し学力を向上させる。
- △児童会・縦割りブロック活動や体験活動の中で支持的風土を醸成し、児童の人権意識や自己肯定感を高める。
- △業務の精選・効率化を図り、時間外在勤時間を減らす。

4 重点取組内容・成果指標

中間評価

5 最終評価

主な担当者

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
●学力の向上	○なかよし学習を軸とし、自分の考えを表現する場を設定した授業の実践	○授業で「自分の考えをもち、友達に伝えることができた」と肯定的な回答した児童80%以上	・「唐津の学びスタイル」に合わせたなかよし学習の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。 ・チェックシートを活用して、学期ごとに振り返る機会を設定する。	・	・	・	・	◎(学力向上) ・(研究主任)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○人権意識や自己肯定感、規範意識を育むことができたと回答した児童が85%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について、組織的対応ができると回答した教職員90%以上	・人権集会の開催や道徳の授業、人権教材、人権・同和教育に関する教材等を活用した授業等を通して、人権教育の推進を行う。 ・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。児童からの訴えを教職員で共通理解する。 ・日々の児童観察を大切にし、気になることへの早期発見・早期対応に努める。 ・生活指導協議会で気になる児童への対応を共通理解した上で、組織的な対応を行う。	・	・	・	・	◎(人権・同和教育) ・(道徳推進教師) ◎(なかよしアンケ) ・(生活指導)
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・自己肯定感が高まる取組を行い、積極的に教師の話や掲示物等で紹介するなど努める。 ・外部講師を積極的に呼び込み、キャリア教育を充実させる中で、自分の夢や目標をしっかりともつせる。	・	・	・	・	・特活部 ・(キャリア教育)
	○他者とのかかわりの中で「安心」を実感できる教育活動。	○児童会やブロック活動、体験活動で仲良く助け合ながら取り組むことができたと回答した児童85%以上	・児童会、ブロック活動を充実させる。 ・児童会やブロック掃除での「さしせそうじ」の取組を協力してさせる。	・	・	・	・	・特活部
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●衛生検査(ハンカチ、ちり紙、爪)で忘れていない児童70%以上 ●アンケートで「毎日欠かさず朝食を食べている」と回答した児童80%以上	・ほけんだりで啓発を行うと共に個別指導を行う。 ・家庭科や保健の授業の中で、健康に良い食事について指導し、生活に生かすことができるようにする。また、健康委員会が、放送での「より良い朝食」についての呼びかけを行う。	・	・	・	・	・保体部
	○体力向上を意識した取り組み	○スポーツチャレンジで全学年1種目参加	・職員への呼びかけや、校内掲示物等で啓発を行う。	・	□	・	・	・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・長期休業中の研修を精選する。 ・校時表を見直し放課後の時間を確保する。また、教務と連携し、月1回全校5時間下校日を設ける。 ・定時退勤日を推奨する。	・	・	・	・	◎教頭
	○OJTの推進	○OJTが業務の効率化につながった、成長につながったと回答した教員80%以上	・若手と複数教員で校務を担当させ、若手育成につなげると共に、双方の業務負担を減らす。データの共有化をする。	・	・	・	・	◎教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○専門性が向上したと回答した職員が80%以上	・児童理解研による児童についての共通理解を図る。 ・特別支援教育の研修を充実させる。	・	・	・	・	◎特別支援教育CN

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
○体験学習の推進	○学校内外での体験活動の充実と外部講師の活用	○ふるさと佐賀、唐津への誇りや愛着をもつと回答した児童85%以上	・外部機関と連携し、校外での体験学習を行う。また、講師を招聘し、校内でも体験学習を行う。	・	・	・	・	◎教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・
次年度への展望

- ・
- ・
- ・